

視覚障害者向け音声データ書き起こし業務支援アプリケーションの研究開発

アプリケーション開発成功。実証実験実現。

【平成19年度助成事業】

研究開発事業の概要と背景

視覚障害者のICTリテラシは向上はしているが、現状では按摩や針、お灸、指圧といった領域の就業が中心であり、ICTリテラシのある視覚障害者は就業機会に恵まれない状況にある。

そのような状況の中、会議録音情報を文字化する音声書き起こしの作業は、視覚障害者が実施している作業の一つであるが、その際に用いるテープ再生装置は、通常のテープ再生装置では視覚障害者にとっては操作性に課題がある。そのため、多くのケースにおいては、高額な専用設備を必要とするため、専用設備を有する施設に出向いて業務を実施している。また、視覚障がい具合によっては、作業者の施設までの移動が困難な場合、雇用機会をあきらめざるを得ない状況も想定される。

そこで、今回の研究開発では、このような課題を解決するため、エージェント連携型のテレワークアウトソーシングシステムと作業者の作業性を向上させるための仕組みを導入し、かつ、作業発注側が懸念する情報セキュリティに配慮した安全・安心な情報伝達の仕組みを実現するツール開発を行う。

リライトサポータの開発

視覚障害者が音声データ書き起こし業務を行う際に、作業を効率化し、セキュリティおよび生産性を高めるリライトサポータの機能開発。

事業化の状況

製品化へ向けての商品開発は市場を見据えた上で進める。

現在の経済状況を考慮し、開発時期を検討している。

今後の展開

音声リライト支援ツールの商品化において、視覚障害者に商品を提供させて頂くためには、本助成金事業にて開発した研究開発・試作品レベルから、製品レベルへ引き上げる必要があり、そのためには本助成金事業の後に実施した実証実験の結果から得られた課題（レスポンス改善、編集機能強化、文字表示拡大機能など）を解決するための追加開発が必要な状態である。

商品化へ向け追加開発を行うには、景気の回復や市場の動向を見据えた上で慎重に進める必要があり、現在の経済状況を考慮し、開発再開の時期を見定めている。

事業実施データ

株式会社IRIユビテック(東京都)

